

2014年 爽春号 第 182 号	飛鳥 かわら版 ASUKA KAWARABAN	発行所 飛鳥出版室 発行人 永野 正将 〒780-0945 高知市本宮町65-6 電話 088-850-0588 e-mail:info@asuka-net.jp http://www.asuka-net.jp
---	--	---



菜の花畑の上を泳ぐ鯉のぼり 四万十町菜の花祭りにて(2013)

季節は忘れることなくめぐります。
いつまで続くかと思われた冬の寒さは去り、光もはなやぐ春の到来です。

* * *

大澤重人さんによる新連載「あすへの歩跡」がスタートします！

大澤さんが高知で生活されていた頃に培われた人とのつながりをたぐり、一人ひとりがもつ人生の歩跡を綴っていただきます。

「風の人、土の人」❶	2
あすへの歩跡 1	大澤重人 4
いろいろかいろ ㊦	安藝真一 6
文章力レベルアップ講座 (12)	水木和香 7
書籍解体新書【後編】	8
出版物紹介	9
キルギスタンからコンニチハ ㊦	氏原名美 10
催し物案内板	11
わが家の太郎 ㊦	永野雅子 12

飛鳥「かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援します。

風の人、土の人 ③

～高知家“を想う人たちによる知と技の融合～

ここで 酒が作れて 幸せ

鳩オヤジ



三月二十二日、高知市本町にある居酒屋『花鶴』さんにて『日土人（ひとびと）』の新酒発表会があった。田植え、稲刈り、製造、流通などに関わった人の名前がラベルに記されてある『日土人』を作り始めて六年になるので、この発表会も多分六回目だ。今年も主宰の司牡丹のタケムラ社長はもちろん、愛媛の酒問屋の多分かなり偉い人であろうジャイアン、番頭のスネオさん、素性はわからんが『日土人』絡みのイベントには欠かさず拝見するドラえもんくんも、いつもの様にひな壇にいる。飲み屋さんの人なのか単にこの酒のファンなのか綺麗なおねいちゃんもたくさんいらっちゃって、酒米生産農家の僕らにとっては、去年の作の出来栄えと新たな気持ちで今年の

作をスタートさせる大事なイベントである。高速道路延伸でお城下までグリーンと近くなったが、何しろ大事な大事なイベントなので宿はきっちり取ってある。『窪川山田錦の会』一同、今夜は気合い入りまくっています。

先輩に誘って貰い、仲間と共に酒米を作り始めて十年。その中で『日土人』を通して酒屋さんと飲んでくれる人らと一緒にイベントをやって来た。去年の六月には四国各地から二五〇人を超える人々が集まり雨の中、田植えした。そして田んぼのそば、滞在型市民農園『クラインガルテン四万十』斜向かいの通称『イケメン広場』でBBQ。樹齢七〇年近くになる二本のメタセコイアの上からワイヤ

ーを張り、大型のブルーシートでテントを作る。時期的なものなのかなぜか『日土人』の田植えは雨が多いので、この辺の準備は僕らも慣れたもの。来てくれる人々も時々吹き込む雨なんて何のその。そして、窪川ポークや旬の獲れたて野菜、仁井田米のおにぎりや生産者リーダーのサツチャン所の卵で作ったプリンがあつという間に無くなつていく。大いに語り、大いに喰らい、大いに飲む。そんな中、マツダ・マンボ監督による映画の撮影も兼ねて、高知在住のミュージシャン『ゆきちゃんけんちゃん』の歌ってくれた映画名でもある『メタセコイアの風』という歌が僕らの気持ちの確に表現した。本当に素晴らしい歌だった。

雨の中での田植え。人が集うこの地の四方を山が囲む



高知国体で乗馬会場になる事が決まり、そこら一面更地になり整備された時もその二本の大樹は会場のモニュメントとして残された。メタセコイアの周りを、竹ボウキを大量に付けたトラクターで競技の合間に仲間と均すという役で僕は国体に参加し、国体が終わった後も、僕らはそのメタセコイアをシンボルツリーとしてその周りで様々なイベントをやってきた。去年は三〇〇〇人を超える来場者を集めた春の『菜の花まつり』(今年四月二十七日開催)から始まり、『日土人』の田植えBBQ、夏はライヴ会場やコンカツ会場として秋は再び『日土人』の稲刈りBBQ、そして二十年近く続けて来た『コスモスまつり』、葉っぱの落ちた冬は恋人たちのデートスポットとして広く延びた枝をロマンチックにライトアップし、実際に、実際、ここで出会った数組のカップルがゴールインもしてくれた。中でも特にその二本



稲刈りは晴れた

の大樹がクロージアアップされるのが『日土人』のイベントだった。去年の様に雨が降ればテントを張る軸になり、日差しが強い時にはその樹が影を作ってくれ、風が強ければその枝が先に風を受けとめ、さわやかな風に変えてくれた。六月初めと十月初めというイベントの開催時も、その樹の美しさを演出した。知らない人と酒を飲み、打ち解ける。ほろ酔い気分で行う県対抗運動会で盛り上がる。そこにあるのはいつも大きな笑い声だった。

毎年増えてゆく『日土人』の参加者に、僕は戸惑いつつも今までの経験と、そしてどこかで『イケメン広場』があるき大丈夫よ』と、何だかまだ自分が子供だった頃の、



テントの下でもこのにぎわい
晴れの日よりもむしろ盛り上がる

頼りがいがさぞあったろうオカンに抱かれてる様な気持ちで『イケメン広場』とメタセコイアに甘えて来た。イベントがあれば当たり前のように散々その周りで飲み喰いし、大騒ぎをして、間は一度も世話になったその樹に肥料をやった事も、日照りの続いた夏に水を撒いた事も無かった。

県が次世代施設園芸団地を作る事となり、イケメン広場は近い将来、大型ハウスになり、メタセコイアはもうすぐ切られる予定だ。恐らく今度の『日土人』の田植えBBQがこの場所での最後のイベントになるだろう。いつも通り、いや、いつも以上にこの場所に来た人に楽しんで貰おう。晴れならよし。雨もまたよし。当たり前のようにそこにその樹があり、当たり前のようにそこに人々が集まったみたい。たまの休みに思いっきり遊びたいと思う人がこの町に集まって来るならば、なるべく楽しませてあげたいと思う。もちろんあの樹まではおおらかにいかなれないだろうけど。

『日土人』、今年の田植えは六月八日です。

(はとおやし／
クラインガルテン 四万十 管理)



あすへの歩跡

大澤重人

1

高知陸上競技協会顧問

山添裕一さん（76）



やまぞえ・ひろかず
満州（現・中国東北部）生まれ。
日大経済学部卒業後、1961
年から中学教諭（理・体・社）
を務め、98年の土佐山村
（現・高知市）立土佐山中学校
長を最後に退職した。高知
市春野町在住。

スタート地点に立って

「駅伝メンバーが足りん。走ってくれんろうか」
同級生の一言が人生を変えた。

諸木村立諸木中学（現・高知市立春野中）二年のときだ。バレー部だった山添さんは、気楽に引き受けた。自信はなかったが、四位でたすきをつないだ。「こんな苦しい競技はやりたくないなあ」

三年時には陸上顧問から誘われた。「秋の大会の一五〇〇メートルに

出てみんか」。競技場に行くと、他の選手はみなスパイクを履いている。「こっちはバレーのもつさ、いい恰好でしょ。みんな速そうに見えるでしょ」。ひらめいた。スパイクに踏まれないよう先頭を走ろう。

予選、決勝とも先頭で走り切り、優勝してしまった。しかも県記録の四分四十六秒二。高知市立六区にも再び出場し、アンカーの六区

四キロを任せられ、トップでテープを切った。

県立高知工業高に進み、バレー部と迷った末に陸上部を選んだ。以来六十一年間、陸上の道を一貫して歩む。県内有数の中距離選手として、引退後は中学の指導者として、退職後は高知陸上競技協会の関係者として。

「さあ、やるぞ。陸上の魅力は、鉢巻を巻いてスタート地点に立つ一瞬の緊張という。」

高二から十三年連続で国体出場するなど全国大会の常連だった。全国優勝にもう少しで手が届く瞬間があった。山形県内で開かれた高三の高校総体一五〇〇メートル。絶対調だったが、スパイクが届き、がっくり来た。サイズが大きい。包帯を巻いて走り、決勝に進んだものの、顧問に訴えた。「無理です」

翌日の八〇〇メートル。後輩の短距離選手がスパイクを貸してくれた。中距離とは、針の長さも位置も違う。それでも準決勝まで一位で走り切った。出場選手中、トップの記録だ。決勝前に悪魔がささやいた。入賞の六位でいいぞ。「守りに入っただけですよ」。

二分三秒の五位。優勝者と一秒未満の差だった。

もう一つ忘れられないレースがある。中学教諭として赴任二校目の日高村立日下中（現・日高中）。手応えのある駅伝チームを仕上げ、支部の大会では全員が区間賞をとって圧勝した。しかし優勝を信じて臨んだ高知駅伝は一区でまさかの四位。焦った山添さんは二区の選手に無謀な指示をした。「飛ばせ！」

実力ある選手だが、オーバースタートになり、中間の三キロでふらふらに。「たすきを渡せない」と、本人が一生悔やむだろう。最後の二〇〇メートルは選手目の前



高校駅伝高知県予選で、3区を力走する高知工業高3年の山添さん＝現在の香南市付近で1955年（山添さん提供）

第33回

寺田寅彦記念賞

受賞しました！



図説

土佐備長炭

21世紀に伝えたいこと

宮川敏彦・谷田貝光克 著

A5版 207頁 定価1,524円+税

2014年2月22日(土)、文教会館において第58回高知県出版文化賞と第33回寺田寅彦記念賞の授賞式が行われました。

寺田寅彦記念賞は、高知県出版文化賞から派生して設けられた賞で、寺田寅彦に関係した出版物や自然科学を対象とした研究または随筆に贈られます。

本書は、宮川さんが長年研究してこられた成果を元に、土佐備長炭の100年以上の歴史に学び、製法・技術を伝承し、将来の可能性と展望を提示しています。“図説”とあるとおり、図版やカラー写真も豊富に掲載されています。学術的な要素を含みながらも、宮川さんの「炭が暮らしの中で身近なものになって欲しい」との願いから、一般の方々にも分かりやすく書かれており、誰にでも手にしていただける作品に仕上がりました。県内各書店でお求めいただけますので、ぜひお手にとってご覧下さい。(白い表紙に映える赤い題字が目印です)

飛鳥出版室で関わらせていただいた書籍としては、寺田寅彦記念賞の受賞は初めてのことです。宮川さん、受賞おめでとうございます！

宮川さんが本書に込めた願いのお話を、かわら版179号に掲載しています。かわら版のバックナンバーは弊社HPからご覧いただけます。また、電子ブックアプリ「ActiBook」をダウンロードしていただくとスマートフォンなどの携帯端末からもご覧いただけます。



に立ち、誘導した。中継後に選手は救急車で搬送された。「指導者として至らない点を子どもに教えてもらいました」。他の選手は誰も彼を責めなかった。

二つの苦いレースが糧となる。守るときは守る。攻めるときは攻める。その見極めは難しい。レース前はさまざまなプランを立てる。

しかし、「相手のあることで、思い通りにはならない」。それが現実だ。それでも若い人には「挑戦をしてもらいたい」と願う。陸上に限らない。スタート地点に立つて緊張感を味わってほしい。

駅伝で活躍した娘は嫁ぎ、孫娘もやはり陸上を始めた。山沿いに妻と暮らす。取材は三月初め。駅

伝に誘ってくれた中学の同級生が帰省する。「ゴルフに行く約束です」。体育会系らしからぬ優しい顔がほころぶ。春先はぎこちなかったウグイスが、流暢な「ホーホケキョ」で旧友を出迎えてくれただろうか。

の体験や失敗がその人の今を形作る。高知県人の歩跡をたどり、あすへのヒントを探りたい。

おおざわ・しげと

毎日新聞大阪本社工程センター室長
高知支局に支局長、次長として計5年半勤務した。「第二の故郷」の高知に度々帰省している。

い ろ ろ が い ろ

その十三

坐る。

安藝真一

坐る。という動作が増えた。朝
昼晩の食事は、椅子にテーブルだ
が、終ると、いつしか椅子を降り
て坐っている。電気仕掛けの保温
カーペットのぬくもりを追っての
事かとも思うが、何よりも歳の
所為とするが正解であろうか。

茶の間以外の部屋でも、とにか
く「坐る」回数が増えた。それも
胡座でなく、正座で坐る。胡座は
云わばカジュアルで寛ろぎで、た
まには良いが、くだけた形は、ど
うも長続きしないし、考えも、味
も、まとまらないように思う。で、
いつの間にか坐り直して正座とな
る。坐っての心持よさは何よりも
その目線の位置。坐しての眼の高
さで眺める光景は、まことに納得
のいく波長で、かたちを送って
来る。日本の家屋の建築における
最初の「黄金比率」は、座高の視

線から生れたのではないかと、ふ
と、思う。この日本各地の仏像を
思い浮かべれば坐像が次々とあら
われて来る。それぞれに坐し、又
半跏の坐もあるが坐る姿がかなり
多い。しかし法隆寺の絶品の百濟
観音は立像で、慈悲の飛瀑が落ち
つづける壮麗の極み。又、不動明
王も各地、立像を多とするも、如
来、菩薩等は、その坐像ばかりが
思い出されて来るのだ。

眼を転じて海外の寺院ではキリ
ストも、聖人も、預言者も、圧倒
的に立像が多いようだ。ノートル
ダムもシャルトルもケルンも、石
造りの伽藍は高く天を目指し、聖
人達もそれに添って立ち、天空へ
と伸び上がり八頭身ならぬ十五頭
身位の姿で林立する。だからロー
マのヴァチカンで、聖母の「ピエ
タ」の坐る姿のたゆたいに会おう
と何やら心おだやかに、異国で如
来に会った感覚となる。

海外の映画ジャーナリストが選
定した二十世紀の劇映画十傑のベ
スト・ワンは日本の小津安二郎、
「東京物語」と決定した。オーソ
ン・ウェルズも、マルセルカルネ
も、フェデリコ・フェリーニ等も
抑えての快挙。小津安二郎の作品
のカメラ位置は独得のもので、畳

の上も廊下の板も撮影レンズが三
十センチ程の低位置。その低さに
映し出される動く人と動くものの又
動かないものの姿が映画館の暗闇
に坐る観客の目線の高さとなる。
立つてでなく坐つて見る高さとな
るのだ。「晩春」という作品があ
る。初老の父と、婚期を過ぎた娘。
笠智衆と原節子がこれに扮する。
映画の終盤で二人が坐る。蒲団の
上である。それぞれの寢床に、
それぞれの木綿の寝間着を着て坐
る。二人は向き合わずに同一方向
を見て坐る。夜が更けてゆく。と
りとめのない会話。父と娘は短く
言葉を交わす。暗がりの椅子に坐
る私達には、画面の二人の視線が
そのまま自分達の座高となって、
ゆつくりと胸の中へ届いていく。
見づづけているだけで、永遠とも



観音菩薩像 田空作
延宝年間（一六七三—一六八二）
愛知県北名古屋市（旧西春日井郡勝町
仁昌寺・蔵）

いうべき時の流れを受けとめられ
る忘れ難いシーンだった。
私の家には畳の間はあるが、縁
がない。縁側に、それも濡れ縁に
坐りたいと思うや切である。風雪
に洗われた厚板の木の目が浮き出
て粗く、坐るといささかの痛みも
ある縁側に坐りたい。明け方の光
もいい。昼近く鳥の声々が行き交
う日溜りの縁側に、つるし柿一つ
手にした所へ誰かが来て腰をおろ
す。ゆつくりと陽が昏れる。何事
も濡れ縁を舞台にして移ろいゆく
時の流れ。そして何よりも夜――。
李白の古い詩にあるように

牀前、月光を看る
疑うらくは是、地上の霜かと
頭を挙げて山月を望み
頭を低れて 故郷を思う

と、いう、その地上の霜かとする
月の光の青さを濡れ縁で視てみた
い。どこか四国山脈の山間の村々、
高みにある農家には必ずや、その
縁側がある筈だ。

いつの日か招ねかれ泊めてくれ
る夜に会えないかと思う。

春分の日を過ぎて、桜の便りを
聴きながら、もう早くも秋の夜の
月の出を待っている。

（あきしんいち／高知市）

長い文章が陥りがちな 「ねじれ文」

水 木 和 香



みずき わか
高知市在住。フリーライター、
生涯学習コーディネーター。
文章教室や漫画の原作教室な
ど高知市を中心に開催している。

短い文章では、主語（誰が）の後に直ぐ述語（何をした）が来るので、書き間違えることはまれなのですが、長い文章の場合、時として主語と述語の関係を間違えて書いてしまう事があります。例えば次の文章を読んでみてください。

・娘の弁当は、タコさんウィンナー、サラダ、フルーツを入れます。

このように主語と述語の関係が間違っている文章を、ねじれ文と言います。

日常会話なら、こんな喋り方をしても一瞬ですから、あれっと思っても大抵は聞き流してしまい、気にも留めないかもしれませぬ。しかし文章に書くと、違和感が拭えなくなります。

先ほどの文章では、「入れる」という述語に対して「私が」という主語が省略されているために起こった、文法上の間違いです。

つまりこのままだと主語が弁当なので、擬人化された「弁当」がおかずを入れたという、何とも不思議な話になってしまいます。文法に沿って正しく書くなら、

・私は娘の弁当に、タコさんウィン

ナー、サラダ、フルーツを入れます。

または主語を省いた形の、次の文章でもかまいません。

・娘の弁当には、タコさんウィンナー、サラダ、フルーツを入れます。

「に」という助詞を一字を入れることで、動作の先が分かり、弁当が主語ではないことは明白ですから、意味を取り違えることはありません。



ねじれない文章に書き直してください。

【問題】

私の日課は、朝起きると直ぐに窓を開け放って換気し、その後直ぐに小一時間ランニングをします。

【解答】

私の日課は、朝起きると直ぐに窓を開け放って換気し、その後直ぐに小一時間ランニングをすることです。
・朝起きると直ぐに窓を開け放って換気し、その後直ぐに小一時間ランニングをするのが、私の日課です。

雑書き

▼この春、一年生になった我が家の次女は先日、学校を五時には下校しているのに六時になっても帰ってこない！ 結局友達の家の前で遊んでるのを発見。もちろん帰ってからは怒られる始末。翌日、「今日はまっすぐ帰ってきなさいよ」と言うこと？ まっすぐってどういうこと？ 曲がらないかんし」との返事。トホホ…。(美)

▼息子就職。息子が東京へ行くため、龍馬空港へ、そして別れの時、妻は、泣いていた。息子は、手を振って行った。その時自分は、目に涙が溜まっていた。心の中で頑張ってやれよと言った。(武)

▼人生初のパーマをあてました。我ながら思いきった決断。鏡やガラス戸に映る自分の姿を二度見三度見。え…だ、誰!? 一週間経ってようやく戸惑うことがなくなりました。そして、朝の髪の毛が断然ラクチンになり（多少の寝癖はカバーされるため）、ズボラに拍車がかかりました。てへ。(上)

版面（はんづら）

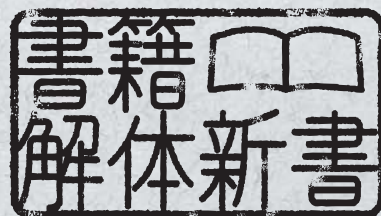
印刷される文字、画像などが入るスペースのことで、全ページのレイアウトの基準となる。ノンブルや柱は含まない。

柱（はしら）

書籍名や章題名、節の見出しなどを記すもの。本文ページの余白（マージン）部分に入っている。

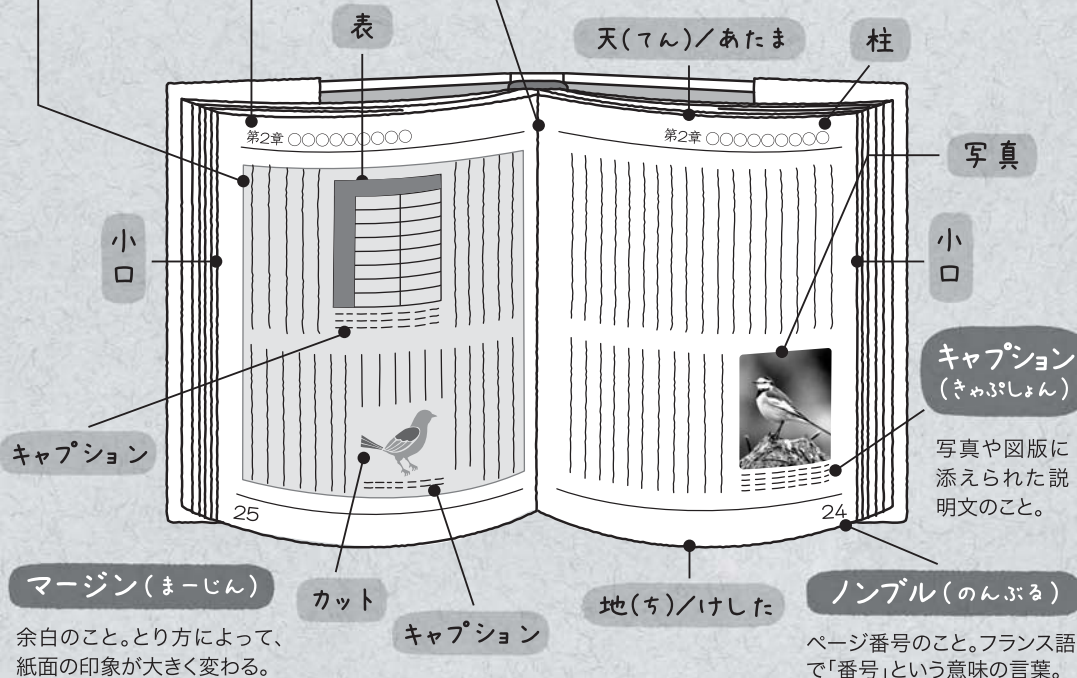
ノド（のど）

本を綴じてある部分のこと。見開いたときの中央部分。製本時の綴じ方によっては見にくい箇所となる。



【後編】中身

「書籍解体新書・前編」は、かわら版180号に掲載しています。弊社HPでも公開中！スマートフォンなどの携帯端末からの場合、電子ブックアプリ「ActiBook」をダウンロードしていただくご覧いただけます。



④ 奥付（おくづけ）

本の最後のページに配置され、タイトル・著者名・発行日・発行者名・発行所・印刷会社名などを記載したもの。小説などではあまり意識されないが、資料的な性質を持つものなどでは特に重要な情報となる。

④ ルビ（るび）

難読文字などの脇につくよみがなのこと。

内面を知ってもっと好きになる。

出会い是一目惚れだったけれど、長く付き合うなら大切なのは中身でしょ——

運命の出会いを果たした「本」ときちんと向き合う時に大切なこと。それは中身。本の内容はもちろんですが、それぞれの“要素”に目を向けたことってありますか？

文字の大きさや字間、行間、書体、一行の文字の数、図版の配置などなど…多くの要素から成り立っています。

そこには著者や編集者のこだわりが詰まっているのです。内容だけでなく、「本そのもの」をじっくり観察してみると、本の新しい一面が見えてくるかも！



値段のないものはお売りできません。貸出はいたします。

奥蘆生の話

小松清郎



A5判 317頁
私家版

昭和三年旧物部町生まれの著者は、十数年前に「久保の昔話」という古本に出会いました。久保は物部の奥地で、平家の流れをくむという久保氏の興亡について書かれたものでした。さらに自身の先祖が蘆生郷（物部）笹の関所番人であったことから、それらに關係する資料を集め、纏めました。貴重な資料を収集した故人の苦労と功績を称え後世に残したいという思いの詰まった一冊。

心の表現

楠瀬益實



B6判 210頁
発行者 富田佳枝
私家版

佐世保海兵団に所属していた楠瀬さんが戦地へ赴くと決まったとき、妹である佳枝さんの元へ一冊の手帳を送りました。短歌九一〇首、俳句八十五首、これらは現代の若者と変わらぬ感性で切り取った「日常」です。時代に抗えないやるせなさだけでなく、花に触れ光に触れたときの喜びも多く詠まれており、その対照が、戦争の無情さをより一層強く感じさせます。

百人一首

岩原朱灯

『冬扇会』主宰



A4変型 112頁



古代紙に倣って作った草木染め料紙に染筆し、「百人一首」として帖（装丁の一種）を制作したものを本に仕上げました。私たちに馴染みのある百人一首も、使われる紙の風合いやそこに書かれる文字の流れによって大きく印象が変わります。渾身のオールカラー！。



キルギスタンからコンニチハ



うじはら なみ
高岡郡越知町生まれ／北大でロシア語を学ぶ／2001年からキルギス在／国立ビシケク人文大学日本語日本文学科学科長

終わりよければすべてよし

— 郷に入っては郷に従え

氏 原 名 美

日本から大学代表団が二つ、三月中旬の同時期にやってくることになった。代表団の一つは大学間協定調印と学生交流それに日本文化講座開講が主な目的、一方はうちの大学と共同で開催する国際シンポジウム参加と学生会議開催が目的だ。それぞれの受け入れ準備が最終段階を迎えていた二月の終わりのこと。協定調印のほうの代表団日程は月曜と火曜シンポジウムの方は四百人もが参加するため、当初から水木の二日間と決まっていた。ところが、急に学生会議をシンポジウム日程とは別建てにしたいと言ってきたのだ。断つてももちろん問題はない。しかし、学部長は「キルギスは何でも突然降って湧いてくる。そして、必ずどうにかなる」と日程変更を命じてきた。どうにか「する」のはこちらだ。

幸い、日本センターが月曜に文化講座の会場を提供してくれることになった。学生会議を繰り上げて、代表団双方に角を立てずにスケジュールを組み直すことができて、ホッとしたのもつかの間、大学も月曜を振替休日にするべしというお達しが突然降って湧き、学生会議開催どころか、

教職員も学生も大学構内に入る事ができなくなってしまうのだ。

急遽、別の短時間のプログラムは火曜に滑り込ませることができた。しかし、学生会議はどうする？ 大急ぎで休日の大学構内使用許可を求め、申請書をしたため、担当者名簿と会議プログラム、全体スケジュールの変更届など、一つが通ったら次をと、何種類もの書類を手に大学構内の一階から三階を駆け降り駆け昇って、最後に学長のサインにたどりつくのに三日かかった。

「最終日程」を双方の大学に伝え、翌日のこと。学部長が「できた、できた」と嬉しそうに刷り上がったばかりのシンポジウム・プログラムを見せにきた。人文社会学系研究発表が二日間十六の分科会に分かれて行われるのだが、開けてびっくり、発表者の一人だったはずの分科会で座長をさせられることになっているのだ。座長なら発表内容を把握しておきたい。ところが、私以外の七名の予稿が手渡されるのは当日の朝だという。「聞いてないよ、そんなの」と呆れたが、「ホントに何でも突然降って湧いてくるんですね」としか

言いようがなかった。

キルギスは「あらかじめ」とか「念のため」を想定しない文化だ。根回しなしでも、その都度上から言われたことだけやれば済む。土壇場の変更でも、なんとか形をつけてしまう。だから、反省が活かされることはない。そもそもプロセスを省みる習慣がない。終わりよければすべてよしなのだ。

そんなこんなで、嵐の五日間は学部長の「どうにかなる」を証明して全日程終了。すでに教師会主催のキルギス日本語弁論大会が迫っていたが、こちらは報告書をまとめる作業に追われ、弁論大会に出場する学生たちは毎日ボランティアで国立美術館に詰めていた。大使館主催の『人形展』の手伝いだ。

いよいよ明日で展覧会終了、やっと本腰を入れて学生たちと練習開始というときに大使館から電話。「突然で恐縮ですが、美術館の要請で『人形展』の会期を延長します。学生さんもあと一週間よろしく」とのことばに、妙に納得してしまった。どうやら日本国大使館も当地の習いに従わざるを得ないらしい。

催し物案内板 〈4月～7月〉

確し物、
もりだくさんの春！



おもしろ鉄道資料展

と き 開催中～5月11日(日) ※毎週月曜休館 ただし5月5日(月・祝)は開館、7日(水)は休館
9:00～17:00 (入館は16:30まで)
ところ 越知町立横倉山自然の森博物館
入館料 大人500円、高校・大学生400円、小・中学生200円
20名以上の各団体は100円引き、70歳以上半額、身障者の方は無料

現代龍馬学会 第1回パネル展より 龍馬の時代は！

と き 開催中～7月22日(火) ※水曜休館
9:00～17:00
ところ 安田まちなみ交流館・和 なごみ
入場料 無料

「国難に殉じた土佐の志士」展 ー池田屋事件・禁門の変・野根山事件ー

と き 開催中～7月4日(金)
9:00～17:00
ところ 高知県立坂本龍馬記念館
入場料 大人(18歳以上) 500円 (20名以上団体 400円)
※高校生以下、高知県・高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・
障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は無料

三山ひろし デビュー5周年記念コンサート

と き 4月26日(土)
【昼の部】開場12:30/開演13:00
【夜の部】開場16:30/開演17:00
ところ 高知県民文化ホール オレンジ
入場料 1階のみ SS席 5,500円 S席 5,000円
チケット販売 高知県民文化ホール・高知大丸・ミュージアムショ
ップ・サークルミュージック・ドデカゴン

春のいけばな展

と き 4月26日(土)～4月27日(日)
10:00～18:00 (27日は17:00まで)
ところ 高知市文化プラザ かるぽーと7階
第1・第2展示場
入場料 前売券 400円、当日券 500円

第49回 土佐中高吹奏楽部定期演奏会

と き 4月27日(日)
開場17:00/開演17:30
ところ 高知県民文化ホール オレンジ
入場料 500円

第33回 高知学芸中学高等学校吹奏楽部定期演奏会

と き 4月29日(火・祝)
開場17:15/開演18:00
ところ 高知県民文化ホール オレンジ
入場料 500円

第25回 高知西高等学校吹奏楽部定期演奏会 「Bon Courage」

と き 5月4日(日)
開場17:30/開演18:00
ところ 高知県民文化ホール オレンジ
入場料 一般前売 1,000円 高校生以下 500円

第37回 鏡野吹奏楽団定期演奏会

と き 5月24日(土)
開場17:45/開演18:30
ところ 高知県民文化ホール オレンジ
入場料 一般前売 1,200円 学生(小中高大) 800円

三曲演奏会

と き 5月25日(日)
開場13:00/開演13:30
ところ 高知県立美術館ホール
入場料 2,000円(中学生以下無料)

やいろ吹奏楽団 第19回定期演奏会

と き 5月31日(土)
開場18:00/開演18:30
ところ 高知県民文化ホール オレンジ
入場料 一般 800円 学生 500円 (末就学児無料)

混声合唱団Pange 第11回定期演奏会

と き 6月14日(土)
開場18:00/開演18:30
ところ 高知県立美術館ホール
入場料 一般前売 1,000円 大学生以下 500円
(当日 1,300円) (当日 700円)



あすかの花から

この春も
葉桜見物
ピクニック

の はずが！



今年は桜の花だけでなくお天道様に
まで見放されたのでしょうか。Xデー
の四月十二日は雨。若葉のグリーンか
ら射す木洩れ日に夏の兆しを感じ、「こ
れだけあたたかけりやビールもすすむ
ねえ」…なんて会話が繰り広げられ
はすだったのに。(返)
気を取り直し、常務のお宅にお邪魔
することに。室内だからよそ様の迷惑
にもならないし(太郎にとっては大迷惑、
寒くない暑くない、居心地最高で五時
間におよぶ大宴会となりました。
いつもよりゆっくりと、たくさん「笑
顔の花見」ができて、結果オーライだ
ったかな！

印刷屋さんの 「すったもんだ」



桜の花もあつという間に散り、毎年、の事ながら年度末の忙しさに春を楽しむ間もなく、夏の兆しを感じる季節になりました。

今年で2度目の成人式（40歳）を迎えるにあたり、ふと20歳の頃の自身を振り返ってみると、余りにも幼稚で無鉄砲、何の目標もなく日々を楽しく過ごすことだけを考え、両親にも迷惑をかけてきたと痛感します。

あれから20年という歳月の中で、守るべき家族ができ、会社と社員の皆さんやその家族、様々な団体での役目、社会的責任、色々な事が自らに託されている責任感のお陰で改めて人として大きく変わったことを実感しております。

とは言っても40歳、まだまだ若輩者です。60歳の永野正将は今の自分を鼻で笑うだろうと思いますし、そうありたいと願う2度目の成人式です。

（永野正将）

わが家の太郎

冷や汗

永野 雅子

先日、森 惟明高知大学名誉教授の「傘寿のお祝いと、出版記念の会」が催され出席させて頂いた。

先生がこれまで出版なさった本の数々がスクリーンで紹介され、改めてこんなに沢山、飛鳥で本の作製のお手伝いをさせて頂いたかと感謝の気持ちでいっぱいになった。セレモニーも進み、次は「鏡割り」。

司会者が、「お名前を呼ばれた方は、恐れ入りますがご登壇下さい」

県下の錚々たる方々が次々と壇上に上がられる。

やがて、我が耳を疑う声、

「飛鳥出版室 代表取締役 永野正将様」

えーっ！ 社長は急用で欠席している。

ど、どうしよう。私が？ 壇上に？

その日は特に忙しくて直前まで仕事をしていたので、そのまま会場へ来たし、美容院へは次の日に行くつもりだった。

「森先生、一言お聞きしていれば……」の心境。

覚悟を決めて、壇上に上がる。女性では東京の出版社の方と私の二人。

冷や汗三斗の気持ちだったけれど、考えてみれば名誉なこと。これからも良い仕事をしていこうと、改めて気が引き締まる。

おいしい食事を頂いて、ほんのり気分が家に帰ると、真っ暗。昼も帰れなかったから、電気もつかない縁側で太郎は蹲っていた。

「ごめん、太郎。すぐご飯にするね」

るね」

急いで彼の好きな缶詰に、カリカリを入れて差し出すが見向きもしない。

機嫌を損ねた理由は判っているから、ひたすら低姿勢で、おやつ

のあれこれを差し出しては

「太郎ちゃん、これなら食べる？」

などとやりながら、ふと、夫と同じことをしている自分に気付く。

「いい加減にしたら？ 太郎になめられちゃうねえ」

そう言った私を、

「お母さん、俺の気持ちややつと

わかったらう？」

きつと、あちらから笑って見て

いるだろうな。

ね、お父さん！

（ながのまさこ／飛鳥常務取締役）

